

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名	一般国道138号御殿場バイパス（西区間） <small>ごてんば</small>		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県御殿場市水土野 至：静岡県御殿場市萩原 <small>ごてんば みどの ごてんば はぎはら</small>		延長	4.3 km		
事業概要						
一般国道138号御殿場バイパス（西区間）は、静岡県御殿場市水土野から静岡県御殿場市萩原に至る延長4.3kmのバイパスである。本バイパスは、東富士五湖道路を經由して中央自動車道と新東名高速道路をつなぎ広域ネットワークを形成するとともに、地域活性化の支援（観光）、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、災害に強い道路機能の強化などの効果を見込んでいる。						
H11年度事業化		H6年度都市計画決定 H26年度変更		H14年度用地着手		H24年度工事着手
全体事業費		338億円		事業進捗率		約50%
				(平成31年3月末時点)		供用済延長 (暫定開通含む)
						1.45 km
計画交通量		29,500台/日				
費用対効果 分析結果	B/C		総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体)	2.0 (2.3)	200/557億円 事業費：157/514億円 維持管理費：43/43億円		1088/1088億円 走行時間短縮便益：938/938億円 走行経費減少便益：127/127億円 交通事故減少便益：22/22億円	
	(残事業)	5.4 (6.2)				
基準年 令和元年						
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量：B/C=1.9~2.1(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=5.1~5.8(交通量±10%) 事業費：B/C=2.0~2.1(事業費±10%) 事業費：B/C=5.0~5.9(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.8~2.3(事業期間±20%) 事業期間：B/C=4.9~6.0(事業期間±20%)						
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保						
・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線(富士急シティバス河口湖)が存在する。						
②都市の再生						
・神場南土地区画整理事業との連携あり。						
③国土・地域ネットワークの構築						
・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間(御殿場市、小山町須走)を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏の中心都市(御殿場市、小山町須走)へのアクセス向上が見込まれる。						
④個性ある地域の形成						
・拠点開発プロジェクト(富士御殿場工業団地、東富士リサーチパーク)へのアクセスを支援する。 ・大規模イベント(富士スピードウェイ)のアクセスを支援する。 ・主要な観光地(御殿場市・小山町、箱根、富士五湖、富士山)へのアクセス向上が見込まれる。						
⑤災害への備え						
・近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1~2箇所の道路寸断で孤立化する集落(小山町須走地区)を解消する。 ・第一次緊急輸送道路に定められている。 ・緊急輸送道路(東名高速道路・中央自動車道)が通行止になった場合に、大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。						
⑥地球環境の保全						
・CO2排出量の削減が見込まれる。						
⑦生活環境の改善・保全						
・NO2排出量・SPM排出量の削減が見込まれる。 ・騒音レベルの改善が見込まれる。						
⑧他のプロジェクトとの関係						
・新東名高速道路と一体的に整備する必要あり。						

関係する地方公共団体等の意見	
静岡県知事の意見： 本事業は、静岡県と山梨県を結ぶ国道138号の御殿場市水土野から同市萩原に至る区間のバイパス事業であり、東富士五湖道路を經由して中央自動車道と新東名高速道路を結ぶ広域ネットワークを形成することにより、交通渋滞の緩和及び交通事故の削減、災害に強い道路機能の強化や、富士山周辺の観光振興や地域活性化といったストック効果が期待され、当該地域の発展に寄与する、大変重要な事業です。 効果の早期発現が図られるよう、引き続き必要な予算の確保とコスト縮減の徹底に努め、事業を推進するようお願いします。 なお、各年度の事業実施に当たっては、引き続き県と十分な調整をお願いします。	
事業評価監視委員会の意見	
・「事業継続」することは「妥当」である。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
・新東名高速道路の延伸（2020年度開通予定）、日本最大級となるアウトレットモールの増床（2020年春予定）により、更なる観光客の増加が見込まれ、御殿場バイパス（西区間）の開通による地域経済の活性化が期待されます。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
・事業進捗率は約50%、用地取得率は99%（平成31年3月末）	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
・御殿場市水土野～御殿場市ぐみ沢区間（延長2.9km）は、早期開通に向けて工事を推進します。	
施設の構造や工法の変更等	
・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。
事業概要図	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。